



Heart-Warming School

枕崎小学校だより

令和5年度

臨時号



くろがねもち

令和5年10月発行

公式フェイスブックページ：<https://m.facebook.com/makusyou/>公式ホームページ：<http://www.city.makurazaki.lg.jp/site/primary-makurazaki/>

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果等について

校長 森 章郎

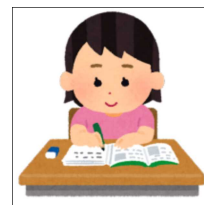
令和5年度4月に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果について報告いたします。

以下に、本調査の対象学年である現6年生の結果等をお知らせします。6年生の結果ではありますが、各学年で学習する内容は、小学校1年から系統的に繋がっているものがほとんどです。思考力・表現力といった学力は全ての学年で継続的に培うものであるという観点などから、単に今年度の調査対象者である6年生のみの結果としてではなく、本校児童全体の学力の一端であると受け止めていただければ幸いです。

この結果を学校全体の成果や課題として捉え、再度本校の学力向上の取組の見直しを行い改善を図っていきます。

調査概要

- (1) 調査日時：令和5年4月18日（火）
- (2) 調査事項：①児童生徒：教科調査（国語・算数）、質問紙調査
②学校：学校質問紙
- (3) 調査集計対象・児童生徒数・学校数（小学校のみの数）
国立・公立・私立合計：977,345人、学校数：18,991校
枕崎小6年 児童数：67人



結果の概要や今後の対策

- (1) 結果（本校第6学年の県・全国平均との比較）数値は平均正答率[%]

教科	本校	県	全国	全国との差
国語	6.2	6.7	6.7.2	-5.2
算数	5.8	6.1	6.2.5	-4.5

- (2) 結果概要や今後の対策等

ア 全国平均を、国語・算数ともに全国平均を下回りました。

イ 国語については本校の課題教科であり、授業で「書く活動」「説明する活動」「振り返り」に力を入れ、思考力や表現力の育成などに取り組んできています。また、読解力の向上や漢字の書き取りなど基礎・基本の定着についても改善を図る必要があります。

ウ 昨年度から高学年教科担任制の実践・研究を算数科で始めました。算数専科の専門的な指導に加え、担任と連携して学校全体で子供たちの算数の学力を高めています。それで今回は全国との差が少し縮まりました。今年度も算数専科の授業で力を伸ばせていけたらと考えています。さらに、2年生から始まる「九九」や各学年で習う四則計算（筆算）などの基礎・基本の徹底も図ります。

問題の紹介

全国通過率と比較し、最も差が大きかった国語の問題を紹介します。内容は長文の読み取りに関する問題でした。

【全国・本校の通過率】 3 - (2)

本校	全国	差
55.2	74.0	-18.8

- (2) 谷さんが、――部伊のように質問した理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 1 相手の活動の予定を、より具体的に知るため。
 - 2 相手の話の内容を、より具体的に知るため。
 - 3 自分の理解が正しいかどうかを相手に確かめるため。
 - 4 自分の行動が可能かどうかを相手に確かめるため。

↑ 正解は2です。

3 谷さんの学級では、学校ボランティアの人たちを全校にしようか決めるために、自分の相手を決めてインタビューをすることにしました。次は、「谷さんの考え」と「インタビュウの様子」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【谷さんの考え】

学校ボランティアの中で、登下校でお世話になっている見守りボランティアの方は、毎朝早くから大変そう。どうして続けているのだろう。私の通学路に立ってくださっている寺田さんと山本さんにインタビューをして、お二人の思いを聞いてみよう。

山本さん はい、そのとおりです。ボランティアをやって本当によかったと思っています。子供たちの安全を守るために、役に立っていると感じられるので、大変さよりもやりがいの方が大きいんです。

谷さん なるほど。そうなのですね。

寺田さん 私も子供たちが安全に登下校している様子を見るときは、うれしくなり、やりがいを感じます。子供たちのすてきな姿を見たときには、さらにうれしい気持ちになり、ボランティアをしていてよかったなと思います。

谷さん イすてきな姿というのは、どのような姿ですか。

寺田さん 一人で下校する友達に声をかけている姿や、上級生が下級生の手を引いて歩いている姿などです。そんな姿を見ると、とてもうれしい気持ちになります。

この問題の結果などを受けての対策

本校児童の実態として、「活用を問う問題、自由記述の問題での誤答や無答が多い。長文の読み取り、問われていること等の理解、条件に沿って書く事が苦手である。問題の意味を捉える力が弱く、何を問われているのか把握できないところがある。」ことが課題としてあげられています。

そこで、これまで授業における共通実践事項として、「書く活動」「説明する活動」「振り返り」の充実に努めてきました。「書く活動」では、一人思考の時間確保による思考の可視化に努め、「説明する活動」では、全体交流の場の設定を行い、活動の目的や検討の視点を明確にして、相手意識を持たせた説明による意見の交流に努めてきました。また、「振り返り」については、わかったことやもっと考えたいことなどの自分の変容について自分の学びを振り返り、できたという達成感から自己有用感を高めて行くことに取り組んできました。しかし、授業の流れによっては職員の手予想以上に書く活動に時間がかかることもあり、それぞれ十分な時間がとれないこともあったようです。今後は、できるだけそれぞれの活動に適切な時間が確保できるように努めて参ります。

また、他の正答率がよくなかった問題についてもそれぞれ原因等を把握し、それをもとにした対応策を検討して子供たちの力を全国レベルまで伸ばすように、更なる授業改善に努めて参ります。保護者の皆さまには、これまで取り組んできている週末課題について、今後も学力向上の大きな柱として取り組んでほしいと考えています。今後ともよろしくお願ひします。